

## (6) 水利用

### ア 地下水及び湧水の利用状況

本市では、一部水道水として湧水が利用されている。湧水取水位置は実施区域から東北東約 7.6km に位置する走水に浄水施設（走水水源地）があり、そこから水道水として処理され市内へ供給されている。なお、走水水源地は万一の災害時には応急給水拠点としての機能も備えている。

### イ 河川及び水路の分布、利水状況

実施区域周辺の主な河川の状況は表 2-2-12 に、河川の分布状況は図 2-2-6(1/2) に示すとおりである。なお、発生土処分場計画地の現状の排水系統は図 2-2-6(2/2) に示すとおりである。

実施区域（廃棄物処理施設の建設、宅地の造成）の大部分は、荻野川の上流に位置し、雨水は排水路により南へ流下、県営長坂建設発生土処分場底部を暗渠で通過し、沢山池へ流入する。沢山池下流は荻野川となり、松越川に合流後、小田和湾に注いでいる。

また、実施区域（発生土処分場）において、新設埋立地（廃止予定）及び増設埋立地の浸出水は、長坂埋立地浄化センターで処理後、河川放流している。また、新設埋立地（廃止予定）と増設埋立地との間に位置する窪地の雨水については、自然流下ルート、自然流下と圧送ポンプの併用ルート（図 2-2-6(2/2) 西側のルート）により、長坂埋立地浄化センターで処理後、河川放流している。なお、処理能力を超える降雨の場合は、直接河川放流としており、処理水、放流水は荻野川を経て、松越川に合流後、小田和湾に注いでいる。

荻野川、松越川の他、実施区域の南側には、小田和川、竹川、南武川が流れており、これら 5 つの河川は、下流で松越川に合流し、小田和湾へ流下している。

なお、実施区域からの排水路における水利用はないが、沢山池は過去には農業用水ため池としての利用がみられたので、調査が必要である。

一方、廃棄物処理施設の建設に関連する新設搬入道路の計画地付近の雨水については、市道坂本芦名線の側溝等に流下、横浜横須賀道路を横断し、平作川へ流下し、久里浜港に注いでいる。

なお、平作川において農業用水等、利水はみられない。

表 2-2-12 主な河川の状況

区分	水系名	河川名	河川延長 (m)	流域面積	
				県内 (km <sup>2</sup> )	県外 (km <sup>2</sup> )
二級河川	松越川	松越川	1,550	11.92	－
		竹川	1,940	6.73	－
	平作川	平作川	7,070	26.08	－
準用河川	松越川	松越川	1,580	1.44	－
		竹川	1,430	2.07	－
		小田和川	2,300	2.62	－
		荻野川	1,910	2.26	－

出典：「土地統計資料集」平成21年3月 神奈川県政策部土地水資源対策課  
「神奈川県横須賀土木事務所管内図」平成20年3月

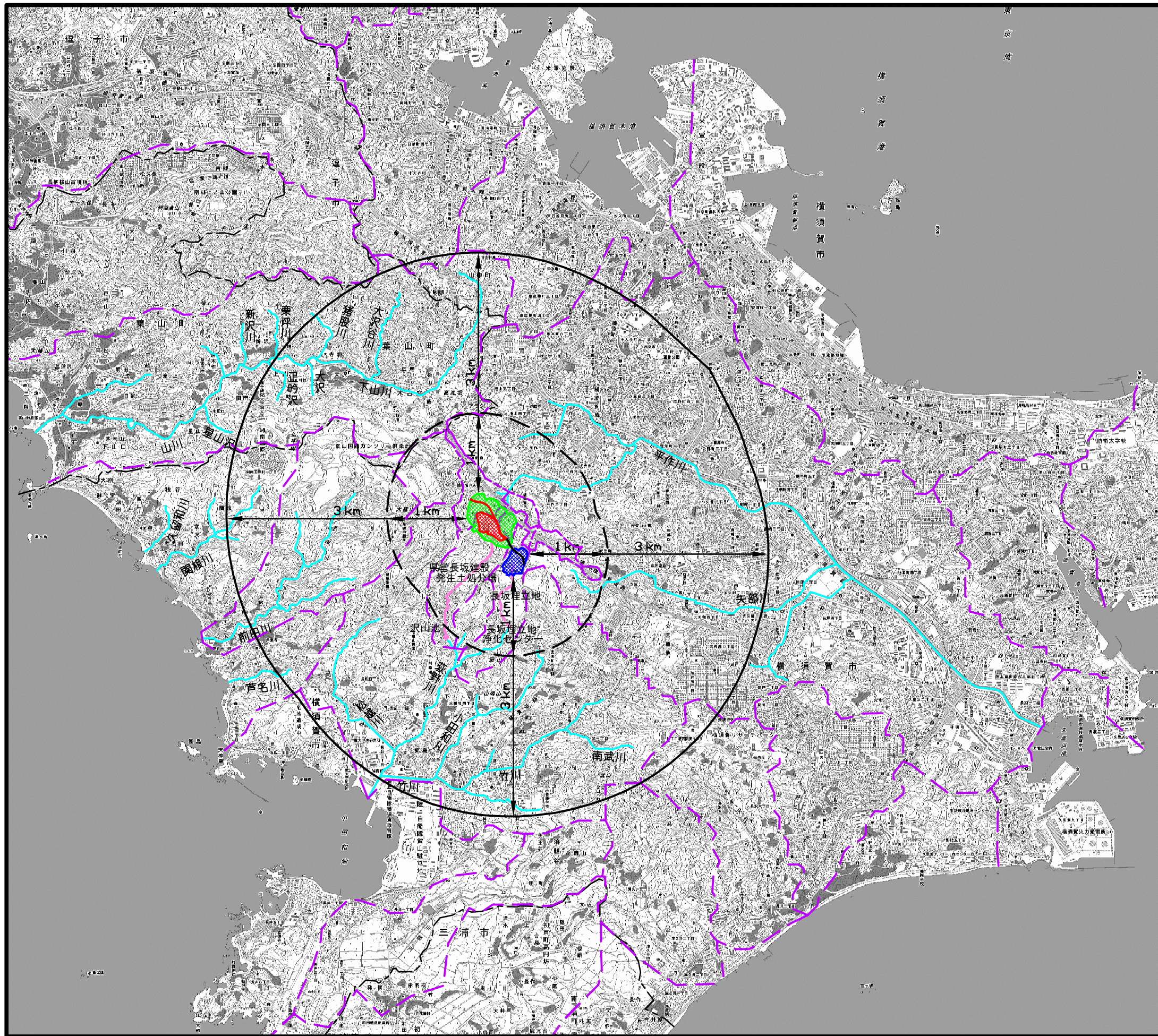
神奈川県横須賀土木事務所

#### ウ 漁業権の設定状況

神奈川県環境農政局水産課にヒアリングを行ったところ、松越川水系及び平作川水系では漁業権は設定されていないが、各々の流下先である小田和湾（海域）及び久里浜港（海域）については漁業権が設定されている。なお、松越川及び平作川の河口部においては、満潮時、海水が流入する位置までは、海域とみなされるため、その位置までは漁業権が発生する。

(空白)





凡 例

- ：廃棄物処理施設  
(宅地の造成を含む)
- ：宅地の造成  
(残置森林(最大範囲))
- ：発生土処分場
- ：市町界
- ：新設搬入道路
- ：既設改修道路
- ：河川
- ：排水路等
- ：河川流域界

注) 宅地の造成(残置森林(最大範囲))には、搬入道路の新設、  
既設道路の改修に伴い形成される法面等を含んでいる。

出典：「横須賀土木事務所管内図」平成20年3月  
横須賀土木事務所  
「横須賀市域図」平成18年2月 横須賀市

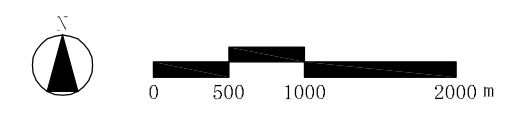


図2-2-6(1/2) 河川位置図



(空白)